

北極星勲章を受章

～モンゴルでの活動の思い出～

市民団体「アジアの花たば」

代表 小川 順子

(広島ユネスコ協会理事)



当時のモンゴル大使・フレル氏と
(2017・7・18・東京での勲章授与式で)

モンゴル国での活動は、1996年、テレビニュースで知った「モンゴル草原火災被害者」のツオグトオチル君（当時14歳）に会うため、モンゴル国を訪問したのが、その始まりでした。

モンゴル国は1990年代前半、社会主義体制から民主化へ移行し、社会は混乱の最中（さなか）で、一番の被害者は末端の市民、子どもたちであった。その時から15年間、現地に必要とされる活動を続けてきました。

1999年から、ごみ環境問題セミナーを実施。2001年には、首都・ウランバートルど真ん中の川・セルベ川と公園の清掃、併せて、ごみセミナーと原爆展を実施しました。

メンバーは清掃公社のおじちゃん、おばちゃん与学生達です。草抜きをしていた私が、丈の高い草に手を出した途端、おばちゃんが、すっ飛んで来て、私の手を止め、自分がその一帯の草を引き抜いてくれました。「この草のトゲが手にささると、抜けないし、痛くて化膿します」。学生が説明してくれて、私は初めて理解でき、そのおばちゃんに心から感謝したのです。

日本から掃除にきたおばちゃんを、モンゴルのおばちゃんが、どこかで見守ってくれていたのです。

モンゴルでの15年間の活動により、様々な知恵、たくさんの方の心、人と人との絆、大自然との共生の重要性等、私の得た人としての底力は、決して他方では体験できない宝なのです。

<勲章受章に至るモンゴルでの主な活動>

1996年 「モンゴル草原火災被害者」のツオグトオチル君を探しに、同国へ

1997年 島根県太田市の「中村ブレイス」さんに、ツオグトオチル君の義足支援をしていただく

1999年 原爆写真展（ソヨルエルデム大学）、日本語セミナー、ごみ環境セミナーなど開催

2000年 子どもの学校復帰を目的とした「短期集中教育支援」事業に協力（2001年も）

日本語指導教師対象の「日本語教授法セミナー」開催（2001年も）

2001年 1999年のごみセミナーの継続として、公園や川の清掃。公園にて原爆展など開催



河川の清掃活動



原爆展

2002年 山陽女学園（広島）スカラシップ受け入れスタート。以後継続して計11人

2004年 広島市内で、モンゴルコンサートツアー（モンゴルへの旅行）のサポート（2005年も）

2007～2009年 モンゴル火災予防意識啓発プロジェクトを実施。日本語スピーチコンテスト、ひろしま平和展、原爆展など開催

☆2017年6月23日 モンゴル政府から「北極星勲章」を受章（外国人に授与される賞では最高位のもの）



受賞に当たり、これまでお世話になりました皆様に、感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。